

記者発表（資料配布）

月／日 (曜日)	担当課 係 名	電 話 (内 線)	発表者名 (担当係長名)	配布機関
1/14 (金)	中播磨県民センター 県民交流室産業観光課	(079) 281-9034	交流観光参事 永園郁美 (班長 平田由佳子)	中播磨定例記者懇談会 メンバー

市川町（川辺城・瀬加山城・鶴居城・谷城）山城想像復原図の完成について

中播磨県民センターでは、西播磨県民局がリーディングプロジェクトとして展開している「西播磨山城復活プロジェクト」と連携し、地域内外へ広く播磨の山城の魅力を発信し、地域全体の活性化や交流人口の増加を推進するため、中播磨にも点在している山城跡やその周辺の豊かな自然等を活かし、AR(=Augmented Reality)技術等により往時の山城の様子が体感できるアプリ制作を計画しています。

この度ARアプリ等に活用するために中世城郭研究家 木内内則（きうちただのり）氏に作成を依頼していた市川町内の4つの山城（川辺城・瀬加山城・鶴居城・谷城）の想像復原図が完成しました。今後、復原図はARアプリに活用するほか、関係市町で山城のPRにも活用していきます。

題名：市川町（川辺城・瀬加山城・鶴居城・谷城）

山城想像復原図

原画サイズ 748mm×948mm 水彩画

作者：中世城郭研究家 木内 内則 氏（神戸市在住）
本職の額装業の傍ら、約50年にわたり播磨地域を中心にこれまで300以上の山城をメジャーで測量し縄張り図（城郭平面図）を作成。
これまでの復原図はたつの市立埋蔵文化センター、山崎歴史郷土館、西播磨総合庁舎1階県民ホール、三木市立みき歴史資料館等で展示実績あり。



○市川町内の4つの山城について

（出典：市川町観光協会ホームページ <https://wp.ichikawa-kankou.com/historic/> より一部抜粋）

【川辺城】（標高324m）

文和年間(1352～1356)赤松幕下大野弾正忠により築城された。約7km離れた恒屋城(姫路市香寺町)にのろしを上げる役割があったとされている。また、市川町に残る瀬加村村誌には、川辺城の中腹にて鉄砲隊が羽柴軍に応戦したとも記されている。

【瀬加山城】（標高200m）

嘉吉年間(1441～1443)より築城され、赤松氏の一族・太田道祖が居城とした瀬加城は、(麓からの高さ)約100mの小規模な山城であるとされているが、山頂には壇跡や敵の攻撃を封じる畝状堅堀(うねじょうたてほり)の跡が見られる。落城の際、城主以下わずか70名で、討ち死に覚悟で敵陣に飛び込んでいった勇姿が伝えられている。

【鶴居城】（標高433m）

南北朝時代に赤松円心の孫・永良三郎則綱が築城し、大永2年(1522)に但馬山名氏が攻めた時に拠点となった「長良の城」が稻荷山城(鶴居城)と推定され、その後も赤松氏に敵対する勢力の拠点

となったと言われている。逸話では敵が攻めてきても滑って登れないように竹の皮を敷いたが、下から火をつけられ焼失したとも言われている。(参考文献「兵庫県地名辞典Ⅱ」)

【谷城】(標高 206m)

中世戦国時代、赤松信濃守範の七男・永良三郎則綱によって築城された。永祿から天正初めの縄張り技術が確認でき、山頂には本丸や井戸跡などの遺構が残っている。

問い合わせ先 中播磨県民センター県民交流室 産業観光課 平田、西村
電話 (079) 281-9034

《参考》

「西播磨の山城へGo」チラシ

